

平成26年度 授業科目の概要

平成26年4月

授業科目の名称	授業科目の内容	単位	担当教員
教育実践基礎研究	すぐれた授業実践者の授業観察と授業者を交えた議論を通して、指導技術、授業設計、学校・学級経営について学ぶ。	2	教員全員
教育実践応用研究 A	教育実践基礎研究で培った力を活用しながら、学校支援や協同研究・事例研究に取り組む。(ストレートマスター用)	2	教員全員
教育実践応用研究 B	教育実践基礎研究で培った力を活用しながら、学校支援や協同研究・事例研究に取り組む。(現職教員用)	2	教員全員
教育実践高度化プロジェクト研究	海外の教員養成大学と提携し、現地の附属学校等で教育実践を行う。国際的意識、異文化理解、語学力も含めたコミュニケーションと対話力を磨く中で創造的教師とは何かを学ぶ。	2	教員全員
教育臨床演習 A	実践者の報告、VTR や実践記録などの具体的事例を活用し、教育学・心理学関係の専門的知見を総合しながら、問題解決のための理念・視点や方法を習得する(1)。	2	コース担当 教員全員
教育臨床演習 B	実践者の報告、VTR や実践記録などの具体的事例を活用し、教育学・心理学関係の専門的知見を総合しながら、問題解決のための理念・視点や方法を習得する(2)。	2	コース担当 教員全員
カリキュラム研究演習 A1	異文化の理解、環境問題、戦争と平和の問題等について、教科横断的な視点から検討し、教材やカリキュラムの改善・開発の前提となる認識を深め合う。	2	国(山本一) 社(黒田)
カリキュラム研究演習 A2	異文化理解等に関わる授業・教材・カリキュラムを開発するために必要な観点・知識・技法を検討し、議論する。	2	国(山本一) 英(久保)
カリキュラム研究演習 B1	子どもの身の回りの自然や生活、数量を対象にしたカリキュラム例や授業実践例を通して、カリキュラムの分析方法を学び、カリキュラム開発の演習を行う。	2	家(綿引) 数(伊藤) 理(松原)
カリキュラム研究演習 B2	子どもの身の回りの環境に関する課題を対象に、子どもの活用力を育成するカリキュラムについて議論し、開発を行う。	2	家(綿引) 数(伊藤) 理(松原)
カリキュラム研究演習 C1	子どもの身の回りの造形や自然、音、運動の美を対象にしたカリキュラム事例や授業実践例を通して、カリキュラムの分析方法を学び、カリキュラム開発の演習を行う。	2	音(篠原) 美(鷲山) 体(横山)
カリキュラム研究演習 C2	子どもの身の回りの造形や自然、音、運動の美に関する課題を対象に、子どもの活用力を育成するカリキュラムについて議論し、開発を行う。	2	音(篠原) 美(鷲山) 体(横山)
教育実践発展研究 I a	授業やカリキュラム開発、臨床的諸問題など、教育実践に関する自らの研究テーマや課題にもとづいて具体的な授業実践計画を立てる(1)。(現職教員用)	2	コース担当 教員全員
教育実践発展研究 I b	授業やカリキュラム開発、臨床的諸問題など、教育実践に関する自らの研究テーマや課題にもとづいて具体的な授業実践計画を立てる(2)。(現職教員用)	2	コース担当 教員全員
教育実践発展研究 II a	教育実践発展研究 I による授業実践計画を実施し、授業改善についての検討を行い、修了研究報告書を作成する(1)。(現職教員用)	2	コース担当 教員全員
教育実践発展研究 II b	教育実践発展研究 I による授業実践計画を実施し、授業改善についての検討を行い、修了研究報告書を作成する(2)。(現職教員用)	2	コース担当 教員全員
課題研究 I (修士論文指導)	教育実践に関する修士論文作成に向けて、自らの研究テーマや課題について具体的に探究していき、一定の理論的知識を踏まえながら論文執筆のための知識や方法・スキルを身につける(1)。	2	コース担当 教員全員

課題研究Ⅱ（修士論文指導）	教育実践に関する修士論文作成に向けて、自らの研究テーマや課題について具体的に探究していき、一定の理論的知識を踏まえながら論文執筆のための知識や方法・スキルを身につける(2)。	2	コース担当 教員全員
課題研究Ⅲ(修士論文指導)	教育実践に関する修士論文作成に向けて、自らの研究テーマや課題について具体的に探究していき、一定の理論的知識を踏まえながら論文執筆のための知識や方法・スキルを身につける(3)。	2	コース担当 教員全員
課題研究Ⅳ(修士論文指導)	教育実践に関する修士論文作成に向けて、自らの研究テーマや課題について具体的に探究していき、一定の理論的知識を踏まえながら論文執筆のための知識や方法・スキルを身につける(4)。	2	コース担当 教員全員
特別支援教育実践発展研究Ⅰ	現職教員の院生が自らの勤務校において、教育実践に関する自らの研究テーマや課題について具体的に探究していき、一定の理論的知識を踏まえながら高度な実践的思慮・知識や方法・スキルを身につける(1)。(現職教員用)	2	コース担当 教員全員
特別支援教育実践発展研究Ⅱ	現職教員の院生が自らの勤務校において、教育実践に関する自らの研究テーマや課題について具体的に探究していき、一定の理論的知識を踏まえながら高度な実践的思慮・知識や方法・スキルを身につける(2)。(現職教員用)	2	コース担当 教員全員
障害児研究法A	障害のある子どもたちの発達に着目して研究を行う際の方法論(文献研究・観察法)について、演習を行いながら学習する。	2	武居 渡 河合 隆平
障害児研究法B	学校教育現場等で臨床研究を行う際に必要となる研究法の基礎的・実践的知識の習得を目的に、(1)臨床研究の実実施計画や分析手法に関する文献の輪読、(2)大学の教育臨床相談指導事例を行う。	2	小林 宏明 大井 学
障害児研究法C	障害児研究法(実験研究)をとおして、実践過程の手続きとその要件を学ぶ。	2	吉川 一義

【選択科目】

○教育臨床コース

授業科目の名称	授業科目の内容	単 位	担当教員
学校教育基礎特論A (教育史)	近代以降の日本の教育の歴史を具体的な問題に即して検討し、教育の現代的課題について考える。	2	鳥居 和代
学校教育基礎特論B (教育の哲学と倫理)	教育の哲学・理念や教育観、さらには教育をめぐる倫理・道徳の問題について、社会の変化や学校教育の現実に照らして考察する。	2	松下 良平
学校教育基礎特論C (教育社会学)	近年の教育改革に関する社会学的研究に関する文献を精読しながら、教育改革の理念と実態との間の齟齬やズレを解き明かすと同時に、それらが生まれる社会的要因について考察していく。	2	松田 洋介
学校教育基礎特論D (生涯学習論)	「生涯学習」に関する基本的な事項について改めて確認するとともに、自治体における生涯学習・社会教育振興計画や市町村民憲章等を検討しながら、生涯学習を推進していく上での課題及びその課題解決について論じる。	2	浅野 秀重
学校教育臨床特論A (学校経営学)	教育行政や学校経営に関する諸問題について検討し、「学校運営の型」をめぐる現状や動向について考察する。	2	田邊 俊治
学校教育臨床特論B (カリキュラム論)	地球規模の課題に対応した教育理論や実践を検討する。まず、民主主義社会を支える市民育成のためのシティズンシップ教育に関して学び、次に環境問題や南北問題等に対応した各教育領域の理論と歴史、実践を学ぶ。	2	本年度不開講
学校教育臨床特論C (授業論)	授業研究の歴史や方法を学んだ上で、実践記録や子どもの学習についての最近のデータをもとに、授業づくりにおける諸問題について考察する。	2	本所 恵
学校教育臨床特論D (生活指導論)	学校における子どもたちの生活指導や進路指導などについて、理論的かつ实际的に考察する。	2	杉田 真衣

学校教育臨床特論E (情報メディア教育)	メディアについての理解と活用力をふまえ、授業実践で活用するための技術・センスを磨き、学校教育に必要な単元を想起し具体化する力、その中に ICT を活用する場面を埋め込む力を育む。	2	加藤 隆弘
学校教育基礎演習A (教育史)	近代日本における教師の教育実践、教育経験、教育改革構想などに触れ、歴史の中に生きた教師の事例に学びながら、現代の教職や教師のあり方を展望する。	2	鳥居 和代
学校教育基礎演習B (教育の哲学と倫理)	教育の哲学・理念や教育観、あるいは教育をめぐる倫理・道徳の問題を、受講者自身が学校教育の現実と関連づけ、学校の日々の活動の中で省察できるようになるための理論的・実践的活動を行う。	2	松下 良平
学校教育基礎演習C (教育社会学)	教育を近代社会に特有のコミュニケーションとして位置づけながら、原理的に考察した理論的文献を講読しながら、教育の社会的規定性をめぐる認識を深めてゆく。	2	松田 洋介
学校教育基礎演習D (生涯学習論)	学校と社会との連携・融合の意義、実践事例、期待される効果、課題などを講義、見学、報告、討議等を通じて明らかにする。	2	浅野 秀重
学校教育臨床演習A (教育行政学)	学校の教育活動を学校組織および教育制度と関連づけて実践できるようになるための、組織ガバナンスや組織開発の視点および手法について深める。	2	田邊 俊治
学校教育臨床演習B (カリキュラム論)	批判的教育研究の理論や歴史を学び、分析視座を得たうえで、日本のカリキュラム編成について考察する。	2	本年度不開講
学校教育臨床演習C (授業論)	実践記録や子どもの学習状況に関する最近のデータの分析・評価を通して、今日の授業課題を考察し、実践の構想をもつ。	2	本所 恵
学校教育臨床演習D (生活指導論)	小学生から高校生までの子どもたちの生活をめぐる学校内外の諸問題や学校における生活指導の諸問題について、実際に調査を行ったり、既存の調査を利用したりして、その分析・考察を試みる。	2	杉田 真衣
学校教育臨床演習E (情報メディア教育)	各学校において、各教員が連携して課題に取り組み、各々の授業実践力を高めるための学校研究の進め方や配慮すべき事項、具体的にに取り組む際に必要となる手法について実践的に学び、体得する。	2	加藤 隆弘
学校心理臨床特論A (カウンセリング論)	心理療法の事例論文を丹念に読み解きながら、精神分析的な心理療法の基礎理論及び解釈の方法論を学ぶ。	2	萱原 道春
学校心理臨床特論B (健康教育)	学校における健康課題(疾病、救急処置、喫煙、飲酒、薬物、性、メンタルヘルスなど)の事例を取りあげ、心身両面に関わる様々な問題の特徴とそれらが生じる要因についての理解を深める。	2	河田 史宝
学校心理臨床特論C (教育相談)	教育相談における基本的な考え方を学習し、教育的課題であるいじめ、不登校、虐待等についての実際的対応について学習する。	2	原田 克巳
学校心理臨床演習A (カウンセリング論)	カウンセリング応答技術学習後、受講者の行ったカウンセリング実習レポート(逐語録ほか)に沿って検討する。	2	萱原 道春
学校心理臨床演習B (健康教育)	教育実践の事例検討、分析を通して、児童生徒のこころとからだに対応する健康課題の解決や実践方法(支援方法)、心身両面に関わる健康教育のあり方について検討と考察を深める。	2	河田 史宝
学校心理臨床演習C (教育相談)	効果的な教育相談活動を行うために欠かせない内省的視点を身につけると共に、事件や事故発生時における緊急対応(児童生徒、保護者、教師に対する心理的支援)のあり方について理解する。	2	原田 克巳
学校教育心理特論A (発達心理学)	児童期までの認知能力がどのように発達し、変化するのかをふまえ、教育が目指すべき児童の発達の姿について理解を深める。	2	浅川 淳司

学校教育心理特論E (学校心理学)	学校教育における児童・生徒を援助するための活動内容、援助提供者としての教師や保護者及びスクールカウンセラーの役割とその連携について理解を深める。	2	八重澤 美知子
学校教育心理特論 F (パーソナリティ心理学)	学校教育場面における諸活動を効果的に実践するための理論と実践について学習する。性格の測定方法、発達や変容過程を知り、幅広いパーソナリティの理論に基づいて、自己理解を深める。	2	本年度不開講
学校教育心理演習A (発達心理学)	最新の発達心理学の洋文献を購読しながら、自身の発達の捉え方について省察し、教育場面で子どもを多様な視点から理解できるようになることを目指す。	2	浅川 淳司
学校教育心理演習 B (学校心理学)	学校教育における児童・生徒援助の活動内容、教師や保護者及びスクールカウンセラー等の役割の明確化と連携、学校教育システムについての検討などを、前期で既習の知識を基に広く国内外の文献を通して理解する。	2	八重澤 美知子
学校教育心理演習 C (パーソナリティ心理学)	学校教育場面における諸活動を効果的に実践するための理論と実践について学習する。特定のパーソナリティ理論に基づいて自己理解と他者理解を深める。	2	足立 由美

○カリキュラム研究コース

授業科目の名称	授業科目の内容	単位	担当教員
国語科授業研究特論	小学校・中学校・高等学校における国語科指導法と教科書掲載教材の解釈・活用について検討するとともに学習者の実態等に合わせた教材を自ら開発し、カリキュラムを編む力をつける。	2	折川 司
国語科授業研究演習	小学校・中学校・高等学校における学力評価について検討する。	2	折川 司
国語科教科内容研究特論 A	国文学(近代文学)の研究法、特に作品分析の方法を基礎に、教材研究の方法を中心に論じ、さらに教材開発や発展の工夫についても考察する。	2	前田 久徳
国語科教科内容研究特論 B	扱いに苦労することの多い現代文の詩歌分野について、抒情と知性、音楽性と造形性といった対立軸や、内外の詩学・文芸思潮の影響を見据えつつ作品を読解し、近代詩から現代詩への展開を追う。	2	飯島 洋
国語科教科内容研究特論 C	国語科の教科内容としての国語学(日本語学)の知識・知見を深めるとともに、それを教育に生かす方策を、具体的な教材の検討を交えつつ考究する。	2	近藤 明
国語科教科内容研究特論D	小中高等学校における伝統的言語文化と古典の扱いを念頭に、伝統として継承される言語文化とは何かについて、具体的に考察する。	2	山本 一
国語科教科内容研究特論E	小学校・中学校・高等学校における国語科の授業内容を魅力的なものとするために、日本語(特に現代日本語)の文法・音声・語彙・方言などについての専門知識をどのように活用できるかについて考察し、言語教材を扱う能力の向上を図る。	2	加藤 和夫
国語科教科内容研究特論 F	充実した漢文教育を行う能力を養成するために、中国語の特性・漢文訓読・中国文学史・日本漢文学史に関する理解を深めるとともに、具体的な作品に即して読解のポイントを講義する。	2	矢淵 孝良
国語科教科内容研究演習 A	国文学(近代文学)における作品分析の方法を基盤にして、小中高等学校における文学教材、評論・説明文に関する教材研究の方法を修得し、授業への実践力と応用力の養成をめざす。	2	前田 久徳
国語科教科内容研究演習 B	明治から昭和期の小説・評論・詩歌を対象に、その精確な解釈を行い、高等学校現代文の指導に堪える高い読解力を修得する。	2	飯島 洋
国語科教科内容研究演習 C	国語科の教科内容としての国語学(日本語学)の知識・知見と応用力を深め、教材の活用・開発等にそれを生かす方策を、具体的な教材の検討を通じて探る。	2	近藤 明

社会科授業研究特論	社会科の授業の「おもしろさ」の本質が「意外性」と「ストーリー性」にあることを理解し、どうしたら授業にその要素を盛り込むことができるのか、事前リサーチの方法について学ぶ。	2	村井 淳志
社会科授業研究演習	「意外性」と「ストーリー性」のあるおもしろ社会授業プランを、具体的に提示するプレゼンテーションの技法を習得する。	2	村井 淳志
社会科教科内容研究特論A	小学校の社会、中学歴史、高校日本史において用いる日本史のテーマと史料について、それらの研究の現状に対する理解を深め、それらを教材としてあつかう方法を身につける。	2	黒田 智
社会科教科内容研究特論B	本科目では、小学校・中学校の社会科および高等学校の地理歴史科における社会見学をめぐり、地理学の巡検の企画立案・資料作成・実施を通じて、効果的な社会見学を実施するためのスキルを養う。	2	吉田 国光
社会科教科内容研究特論 C	哲学の文献を読みながら、「社会」「人間」についての考え方を根本から検討し、社会科教育の基盤となるものを研究する。	2	山本 英輔
社会科教科内容研究演習A	多様な史料を対象とした日本史研究の方法を学び、各々が実践することで、社会科教育の実践に即した教材として開発する力量を身につける。	2	黒田 智
社会科教科内容研究演習B	小学校の社会、中学校の社会「地理」、高等学校の地理歴史「地理」において用いる地理の内容を研究する方法と、それらを各校種に応じた教材として開発する方法とを地理教育分野の学術論文講読を通じて修得するよう指導する。	2	吉田 国光
社会科教科内容研究演習C	「公共性」ということをテーマにして、哲学の文献を読みながら、共同で議論と思索を重ね、公民分野の授業にどのように反映させるかを研究する。	2	山本 英輔
数学科授業研究特論A	数学の授業研究に関する国際比較研究を通して、我が国の授業研究の特色を理解する。	2	大谷 実
数学科授業研究特論B	H・フロイデントール著『教育的課題としての数学』(1973)を精講し、数学教育の理論と実践について視座を得、現代の数学教育の諸問題に取り組む。	2	伊藤 伸也
数学科授業研究演習	数学の授業の質的データを分析する理論と方法について概観するとともに、実際の授業の分析を試みる。	2	大谷 実
数学科教科内容研究特論A	「数と式」、「方程式」に関連した代数学理論についての基本的内容を学び、最後に具体的な教科内容とこれらの背景の理論との関連を検討する。	2	山下 浩
数学科教科内容研究特論B	古代から近代、そして現代に至るまでの幾何学の発展の歴史を概観し、特に中等学校教育において指導されている図形と関連した分野の背景となる基本的内容について解説する。	2	長谷川 和志
数学科教科内容研究特論C	解析学の基礎事項を学ぶことにより数学の教材研究の向上をめざす。	2	佐藤 秀一
数学科教科内容研究特論 D	教育に関する情報技術の先行研究の解説、e-Learning を用いた数学教育に関する先行研究の解説、教育実践への展開についての議論を行う。	2	松本 豊司
数学科教科内容研究演習A	代数学に関係する算数・数学科教材の数学的基礎理論について演習を通じて、さまざまな具体例を学ぶ。	2	山下 浩
数学科教科内容研究演習B	中等学校教育において指導されている幾何学に関する内容の背景となる専門的かつ基本的事項を修得するとともに、演習を通して主体的かつ豊かな指導力の育成を図る。	2	長谷川 和志
数学科教科内容研究演習C	実数の性質、べき級数、一様収束等の解析学の基礎事項を演習により学ぶ。	2	佐藤 秀一
数学科教科内容研究演習 D	e-Learning に関する基本的事項を修得するとともに、教材作成演習を通して豊かな指導力を養うことを目標とする。	2	松本 豊司

理科授業研究特論	理科授業における授業設計, 指導技術等について学ぶとともに, 授業分析の方法について習得することを目的とする。	2	松原 道男
理科教科内容研究特論A	化学内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	井原 良訓
理科教科内容研究特論B	生物内容(包括的)を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	矢倉 公隆
理科教科内容研究特論C	生物学内容(分類・生態的)を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	川幡 佳一
理科教科内容研究特論D	地学内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	酒寄 淳史
理科教科内容研究特論E	物理内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	辻井 宏之
理科教科内容研究演習A	化学内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	井原 良訓
理科教科内容研究演習B	生物分野の包括的内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	矢倉 公隆
理科教科内容研究演習C	生物学の分類・生態的内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	川幡 佳一
理科教科内容研究演習D	地学内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	酒寄 淳史
理科教科内容研究演習E	物理内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	辻井 宏之
音楽科授業研究特論	学習指導要領に基づきながら, 小・中・高の音楽科の授業づくりに関して, 具体的な教材, 授業実践を通して学習する。	2	篠原 秀夫
音楽科教科内容研究特論 A	小・中・高等学校における声楽作品の扱いと教科書の実態を踏まえながら, 日本語と外国語の歌の違いを考察し, 正しい発音と適切な歌唱表現を身につけ, 魅力的な授業展開を行うための教材研究の方法を検討する。	2	安藤 常光
音楽科教科内容研究特論B	音楽科教員として必要な, 器楽(ピアノ)演奏技術及び表現法を, バロックから現代までのピアノ作品教材をとりあげ, 現代様式及び作曲家固有の様式への考察を通し, その演奏法を研究する。	2	小野 隆太
音楽科教科内容研究特論C	ヴァイオリンの演奏法に関する文献を参考に, 児童・生徒の音感発達, 身体発達の特徴を捉えた器楽初動指導テキストを試作する。	2	本年度不開講
音楽科教科内容研究特論D	バトンテクニックの基礎力を強化するとともに, 音楽科の授業で取り扱われる多様な楽曲を通して楽譜を読み解く力を養う。また, 楽曲分析から作曲法を学ぶ。	2	浅井 暁子
音楽科教科内容研究特論E	西洋音楽史, 民族音楽, 日本伝統音楽の特徴についての知識を豊富にし, 音楽教師の資質向上を図る。	2	坂本 麻実子
音楽科教科内容研究演習A	戯曲や高度な声楽作品を通して, 歌唱・合唱指導のための実践的な方法を身につける。	2	安藤 常光
音楽科教科内容研究演習B	音楽科教員として必要な, 器楽(ピアノ)演奏技術及び表現法を, バロックから現代までのピアノ作品教材をとりあげ, 演奏者の個性, 解釈を生かしながら, より高度な演奏法を実践する。	2	小野 隆太
音楽科教科内容研究演習 C	モーツァルト:「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」の演奏事例(CD)比較により, 器楽アンサンブルの演奏指導法を探る。	2	本年度不開講
音楽科教科内容研究演習D	学習した理論を基に, 楽曲の編曲(伴奏づけ), 作曲(歌曲, 室内楽など小編成のもの)を試み, その楽曲を基に, 指揮者として表現実践に取り組む。	2	浅井 暁子

図画工作・美術科授業研究特論	図画工作・美術科教育の変遷及び今日的課題の議論に基づく図画工作科・美術科授業における授業設計, 指導技術等を授業実践を通じて学ぶ。	2	鷲山 靖
図画工作・美術科教科内容研究特論 A	絵画内容を中心に教材の図画的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	大村 雅章
図画工作・美術科教科内容研究特論 B	彫刻内容を中心に教材の造形的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	江藤 望
図画工作・美術科教科内容研究特論 C	デザイン及び工芸内容を中心に教材の造形的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	池上 貴之
図画工作・美術科教科内容研究特論 D	美術理論及び美術史の内容を中心に鑑賞教材の造形芸術学的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	宮下 孝晴
図画工作・美術科教科内容研究演習 A	絵画内容を中心に教材の図画的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	大村 雅章
図画工作・美術科教科内容研究演習 B	彫刻内容を中心に教材の造形的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	江藤 望
図画工作・美術科教科内容研究演習 C	デザイン及び工芸内容を中心に教材の造形的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	池上 貴之
図画工作・美術科教科内容研究演習 D	美術理論及び美術史の内容を中心に鑑賞教材の造形芸術学的基礎および教材の活用と開発について, 演習と実践から学ぶ。	2	宮下 孝晴
保健体育科授業研究特論	小・中・高等学校の学習指導法と教材の解釈・活用を検討するとともに, 保健体育授業観察を通して, 授業設計, 指導技術, 授業評価するための方策を学ぶ。	2	横山 剛士
保健体育科教科内容研究特論 A	バイオメカニクスの運動分析の方法を理解し, 測定・分析したデータの評価方法について学ぶ。	2	山田 哲
保健体育科教科内容研究特論 B	Joseph Strut 著書『The Sports and Pastimes of the People of England』を講読し, イギリスのスポーツ, 特に球技の歴史について理解を深める。	2	秦 修司
保健体育科教科内容研究特論 C	身体表現に関する最近の文献を講読し, 表現運動の分析方法を探究する。	2	吉川 京子
保健体育科教科内容研究特論 D	わが国および諸外国における保健・体育の教科制度, 教材内容, 教員養成制度の成立から現在に至る変遷について学ぶ。	2	大久保 英哲
保健体育科教科内容研究特論 E	知覚, 認知, 情動と身体運動の関係性にに基づき, 学校体育や部活動において運動スキルの学習を促進するための方法について学ぶ。	2	村山 孝之
保健体育科教科内容研究特論 F	オリンピック大会の理念を通してスポーツの文化的・教育的役割を理解し, 学校体育の効果的な指導に結びつける知識やノウハウを修得する。	2	寶學 淳郎
保健体育科教科内容研究演習 A	バイオメカニクスに関する文献を講読し, 体育・スポーツ運動の解釈や応用方法について検討する。	2	山田 哲
保健体育科教科内容研究演習 B	William J. Morgan 編集の『Philosophic Inquiry in Sport』を講読し, スポーツプレイ, ゲームの性格について検討する。	2	秦 修司
保健体育科教科内容研究演習 C	創造的な身体表現を創出させるための支援について, 複合的な感性情報の活用という視点から検討する。	2	吉川 京子
保健体育科教科内容研究演習 D	明治期から現在に至る石川県の体育・スポーツの歴史的あゆみとその特質について検討する。	2	大久保 英哲
保健体育科教科内容研究演習 E	心と身体を統合的に捉え, 教育現場の今日的課題に運動心理学の視点からアプローチする方法について探究する。	2	村山 孝之
保健体育科教科内容研究演習 F	クーベルタンや最新の諸外国におけるスポーツ教育論を講読し, 体育やスポーツの文化が人間や学校・社会に果たす役割について考究する。	2	寶學 淳郎

家庭科授業研究特論	家庭科教育の変遷や今日的課題、授業実践記録等を題材に議論を行い、家庭科教育の教育的意味、カリキュラム、教育内容、授業のあり方、授業分析などについて理解と思考を深める。	2	綿引 伴子
家庭科教科内容研究特論A	被服学の内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について学ぶ。	2	松平 光男
家庭科教科内容研究特論B	家庭科・家庭経営領域の内容を中心に、その指導に関わる教材の扱いと活用について学ぶ。	2	尾島 恭子
家庭科教科内容研究特論C	家庭科教育や保育学に関する文献の講読を通して最近の研究動向を知り、また、自身の問題意識とも照らし合わせながら、現在の家庭科教育が直面する課題について検討する。	2	滝口 圭子
家庭科教科内容研究演習A	被服内容を中心に教材の科学的基礎および教材の活用と開発について、演習と実践から学ぶ。	2	松平 光男
家庭科教科内容研究演習B	家庭科・家庭経営領域での小・中・高等学校における教材活用の現状を踏まえて、教材の開発・活用について検討する。	2	尾島 恭子
家庭科教科内容研究演習C	家庭科教育や保育学に関する最近の研究論文や実践記録の講読を通して、教育実践を研究していくうえでの基本的な方法論を追究する。	2	滝口 圭子
英語科授業研究特論	英語科授業における教授・学習理論、指導技術等について学ぶとともに、授業分析の視点や方法についても検討する。	2	滝沢 雄一 榎本 剛士
英語科授業研究演習	英語科における授業研究の理論や方法について学び、実際に授業研究や分析を行う。	2	滝沢 雄一
英語科教科内容研究特論A	英語の教科書で扱われている文法事項を取り上げ、最近の英語学の研究成果や動向などに基づいて検討する。	2	守屋 哲治
英語科教科内容研究特論B	教材開発の基礎となる英語力をイギリス文学作品や文化論を通して身につける。	2	山本 卓
英語科教科内容研究特論C	アメリカ文学作品の精読、またその内容や教材としての応用性を巡る、英語によるディスカッションを通じ、英語や英語圏文化の理解を深め、英語教員として必要な諸技能のさらなる向上を目指す。	2	久保 拓也
英語科教科内容研究特論D	外国語教育にとって大切な英語学・応用言語学の知識を深める。様々な習熟度の日本人学習者に効果的な教育の在り方を考える。	2	澤田 茂保
英語科教科内容研究特論E	教材開発の基礎となる英語力を英米文学(特にイギリス文学)およびイギリス文化論を通して身につける。テキストの精読と英語によるディスカッションを中心に行う。	2	デイビット・アベ
英語科教科内容研究演習A	英米における学習者向け文法書の体系と日本における学校文法との体系を比較し、日本における文法の取り扱い方の問題点・改善点などを英語学の視点から考究する。	2	守屋 哲治
英語科教科内容研究演習B	イギリス文学の内容を中心に取り扱い、英語教育において有用な教材の活用方法と開発について、演習と実践から学ぶ。	2	山本 卓
英語科教科内容研究演習C	アメリカ文学の内容を中心に取り扱い、英語教育において有用な教材の活用方法と開発について、演習と実践から学ぶ。	2	本年度不開講
英語科教科内容研究演習D	英語学・応用言語学上の知識を踏まえて、言語材料の収集から教材作成の一連のプロセスなどを学ぶ。	2	澤田 茂保
英語科教科内容研究演習E	異文化理解(主にイギリスにおける芸術のありかた)の内容を中心に、英語教育において有用な教材の活用方法と開発について、演習と実践から学ぶ。	2	デイビット・アベ

○特別支援教育コース

授業科目の名称	授業科目の内容	単位	担当教員
特別支援教育特論	障害児教育学を構成する学問諸領域について構造的かつ歴史的に理解する。	2	河合 隆平
聴覚障害教育学特論	言語獲得にかかわる本を輪読し、障害のない子どもの言語発達について概観する。その上で、聴覚障害児の手話獲得、日本語習得支援の在り方について議論する。	2	武居 渡
障害児福祉教育特論	特別支援教育と障害児・者福祉の連携課題について、ライフステージごとの生活問題と福祉実践の検討を通して把握する。	2	河合 隆平
障害児心理学特論A	肢体不自由と知的障害児に対する各指導法の根拠となる心理学研究の知見を学び、批判的検討を加えながら指導法を構築する上での課題を明確にする。	2	吉川 一義
障害児心理学特論B	学習障害(LD)を中心とした軽度発達障害の心理機能特性を理解し、特別支援教育の概念を踏まえて個人に最適な教育支援方法を習得する。	2	武田 俊男
発達障害指導法特論	コミュニケーション困難に対応する技法として INREAL をとりあげ、INREAL の理論的背景、技法の詳細と実施法の基礎を習得する。	2	大井 学
言語障害指導法特論	障害がある児童生徒の指導法について、主に言語・コミュニケーション障害(吃音、構音障害、自閉症等)に焦点をあてて論じる。	2	小林 宏明
知的障害機構特論	脳障害は個体発生の各ステージにおいて人間発達と自己実現に多様な影響を及ぼす。本授業では、生物学的要因としての脳障害が機能としての知能の障害を引き起こすメカニズムを脳科学における研究成果をもとに検討する。	2	矢本 聡
特別支援教育演習	特別支援教育における教育の専門性について、具体的な学校教育実践および援助・相談事業の検討を通して把握する。	2	河合 隆平
聴覚障害教育学演習	聴覚障害教育の中で新たな動向として注目される、手話と音声言語を同時に学んでいくバイリンガル教育を取り上げ、北欧やアメリカにおける聴覚障害児のバイリンガル教育について検討を行う。	2	武居 渡
障害児心理学演習A	知的障害、並びに肢体不自由教育の発達と指導法に関する研究論文をもとに、教育支援計画・指導計画・授業案の有機的連関過程とこれを総括する教育課程の在り様を検討する。	2	吉川 一義
障害児心理学演習B	軽度発達障害がある複数事例をもとに、個人の生活環境要因と心理機能特性を精査して教育実践を設計していく過程に即して必要な判断や手技を習得する。	2	本年度不開講
発達障害指導法演習	INREAL の実践に参加することを通じて高度に実践的な技能を養成し現場での実施を可能とする。	2	大井 学
言語障害指導法演習	障害がある児童生徒の指導法について、主に言語・コミュニケーション障害(吃音、構音障害、自閉症、知的障害等)に焦点をあてて、その病理と指導法についての研究論文等を輪読する。	2	小林 宏明
知的障害機構演習	重篤な脳障害に起因する重い運動機能障害を合併する知的障害に関する多水準の評価・診断法を理解し、それによって得られる所見にもとづく支援の方策をケース・スタディをとおして実践的に考察する。	2	本年度不開講
障害児臨床実習	特別支援学校、小中高等学校及び大学の相談室、医療機関、NPO 法人などにおいて子どもの臨床的な観察と指導を、特定事例につき長期的継続的に実施するか、あるいは短期的に多数事例に実施することで、臨床教育的な感受性と実践性を養う。	2	小林 宏明 大井 学 武居 渡 吉川 一義